

I. ACL 再建手術のタイミング

○佐藤 卓 (さとう たかし)¹⁾, 井上 雅之²⁾, 梨本 智史²⁾, 渡辺 聡¹⁾, 大森 豪³⁾, 古賀 良生⁴⁾

¹⁾ 新潟医療センター 整形外科

²⁾ 新潟医療センター リハビリテーション科

³⁾ 新潟医療福祉大学

⁴⁾ 二王子温泉病院

スポーツ選手の ACL 損傷で再建術をどのタイミングで行うかは合併損傷予防の見地や筋力などの理学的要因と個別の競技背景などの考慮を要する重要な課題である。これまでこのタイミングに関しては多くの報告があり, early か delayed かという議論が行われてきているが, 一定のコンセンサスは得られていない。そもそもどの程度の時期を early もしくは delayed とするかという定義自体報告によって大きく異なっており, ACL 再建術に対する臨床的背景の多様性を物語っている。しかしながら, 活動性の高い high demand athlete に対して必要以上に手術時期を遅らせたり, 長期間保存的治療で対応したりすることは performance の低下のみならず, 半月や軟骨の二次損傷ひいては将来的な関節症をもたらす可能性が増大することは広く認識されている。ではどの程度早期の手術が可能であるのか, どの程度まで手術待機期間を設定できるか, 実際にはある程度の許容範囲を設定することが肝要と思われる。このため手術のタイミングが影響しうる要因として, 手術前の筋力, laxity, 術後関節線維症発生の有無, 術後の臨床成績, 可動域, 半月・軟骨などの二次損傷の有無, 筋力の回復, 復帰に要した期間などについて, 文献 review と自験例で検討し, 手術時期決定における臨床的目安を提案しご意見を頂きたい。